

会員卓話

「ツーリズムの今を考える」

(株)JTB九州 鹿児島支店 升本喜之会員

2015年は、外国人の訪日インバウンド数が日本人の海外渡航者数を初めて上回るという
マイルストーン的な年となった。そして、日本政府が2020年に訪日インバウンド4,000
万人を目標とする観光戦略を発表したのも記憶に新しい。



日本において、国是としての観光が注目されるようになったのは近年の事である。
観光が地域にもたらす経済効果の威力は、ヨーロッパなどの観光先進国においては、航空機などの交通機関の発達
と共に、グローバル化の拡がりの一つとして、当然の如くその概念が根付き、認知され、それぞれの国策と
して発展を遂げてきたものである。

ヨーロッパを例に挙げれば、ツーリズムの概念はボーダー（国境）を超える事であり、様々な国の人々が国境を行
き来する事である。当然ながら、自国に入って来る外国人だけではなく、自国民の他国への往来、双方向での交流を
大前提としている。

その事を考えた時に、現在の日本のツーリズム（産業）の捉え方は、余りにも一方通行と言えるだろう。ツーリ
ズム（産業）とは人の相互交流の上に成り立つものである。

日本全体、或いは各地域行政が「おらが村へ来てくれ」的な販促手法の一边倒だと、いずれどの国からも相手にさ
れなくなるだろう。

この事は鹿児島県においても同様である。
鹿児島県民の有効旅券保有率は、九州で最下位、全国でも下位に位置する。鹿児島を外に売り込みたければ、まず
自分達が外に出て、外の事を知り、自分達の観光素材がどの程度のものなのかを客観的に知るべきである。県は、そ
の基幹産業を農業と観光業と定めているが、今後の課題は観光業の人財育成である。

「鹿児島しか知らない人間は、鹿児島の事は熱く語れても、鹿児島を売り込む事は出来ない」
150年前に、厳罰覚悟で19名の若者を英国に送り出した、この地のDNAを今一度思い起こしたい。

大重ガバナー年度 地区大会



2015-16年度 RI 会長賞、
会員増強優秀クラブ5位、
クラブで表彰を受けました。

●ホームクラブ出席率80%を目指しましょう！

出席報告	第2816例会	第2814回訂正
会員数	39(35)名	39(34)名
出席数	21(19)名	22(21)名
出席率	56.76%	61.11%

●今後の予定

10/12(水)	第5回クラブ協議会 (大重ガバナー公式訪問)
10/16(日)	第8回児童虐待防止イベント
10/26(水)	外部卓話 鹿児島市長 森博幸様

市内ロータリークラブのプログラム ★印は例会場ないし例会時間変更

RC	例会日	プログラム	例会場	RC	例会日	プログラム	例会場
東	10/6(木)	ガバナー補佐訪問	サンディズイン鹿児島	東南	10/11(火)	ガバナー補佐訪問	サンロイヤル
北		★夜間例会	レプラント鹿児島	城西		大重ガバナー訪問	東急REIホテル
サザン		クラブ協議会	東急REIホテル	西	10/12(水)	クラブフォーラム	山形屋
鹿児島	10/7(金)	ガバナー補佐訪問	山形屋	西南		★早朝例会	ゆうづき
中央	10/10(月)	祝日休会	山形屋				